みなさまに愛され16年

広報きほう発刊200号

これからも感謝の気持ちを込めながら、人や地域が輝き、愛される広報紙をみなさまと作っていきます。

平成18年1月に旧紀宝町と旧鵜殿村の合併による紀宝町の誕生に伴い創刊された「広報きほう」が、今月号で発刊200号を迎えることができました。

令和2年に実施したアンケート調査の結果では、広報紙を「毎月読んでいる」と答えた方が76・5％と、町の情報源として、親しんでいただけていることが伺えます。

今後もわかりやすい紙面づくりに努め、多くの方にご愛読いただけるよう、町の魅力を発信していきます。

紙面はすべて自前で作成し コスト削減とわかりやすさを追求

「広報きほう」は、第1号から企画から写真撮影、構成、編集まですべて担当者が行い、印刷業者にデータで入稿しています。

デザインや構成を自分たちで行うことで、コストを削減し、紙面のフルカラーを実現しています。また、細かい部分まで調整できるため、フォントの大きさや余白の広さ、写真の配置など「わかりやすさ」を追求し、作成しています。

お知らせを届けるだけでなく 興味を持ってもらえるように

広報紙は、町からの情報をお知らせするものですが、それだけでなく、まちに興味を持ってもらえるような紙面づくりを目指しています。

そのためには、情報を適切かつタイムリーに届けることはもちろんのこと、町民のみなさまが主役であることを忘れず、楽しんでいただけるような想いを持って作成するよう心掛けています。

また、町内の方はもちろん、町外の方も手軽に広報紙を読むことができるように、町ホームページにアップしたり、スマートフォンアプリ「マチイロ」で配信したりしています。

「マチイロ」については、4ページで紹介していますので、ご自分のライフスタイルに合わせて、ご活用ください。

広報きほうのテーマは「笑顔」

今回の特集にあたり歴代の広報担当者に話を伺ったところ、みなさん口をそろえて「広報紙を発行できるのは、町民の方の協力のおかげ。町民の方の目線で作成することを心掛けていた」と話していました。

発刊100号を迎えたときの広報紙に、「広報きほう」の永遠のテーマは「笑顔」です、という言葉が残されています。町民の方の笑顔があふれ、その笑顔を見た読者の方も笑顔にする。そんな広報紙を目指し、これからも努力し、次の300号へ向けてのスタートを切ります。引き続き、応援よろしくお願いします。

＜広報紙が配布されるまで＞

企画
町の情報やお知らせを基に、特集のテーマや紙面の構成を検討します

▼

取材・撮影
インタビュー・写真撮影などを行います

▼

原稿作成
取材を基に原稿を作成し、使用する写真を選びます

▼

校正
企画調整課内で誤字脱字などがないか確認します。次に印刷所で、最終確認を行い、校正完了です

▼

印刷
印刷会社が、印刷・製本を行い、配布日の前日までに役場へ納品します

▼

配布
広報紙にチラシを折り込み、配布します

歴代広報担当者にインタビュー

印象の深い、思い入れの強い広報は？

4代目
田中 健太郎（たなか けんたろう）
担当 平成30年5月号から令和4年4月号まで

思い入れの強い一冊

平成31年4月号
「平成の振り返り」の特集では、平成のできごとを振り返り、年表にしました。竹鼻さんと愛野さんに助けてもらいながら作った思い出の1冊ですね。

3代目
愛野 裕基（あいの ひろき）
担当 平成27年5月号から

思い入れの強い一冊

平成30年8月号
楽しい広報を作りたいと思い、夏休みの時期を狙って、「虫」の特集を組みました。子どもたちからの反響はとてもよかったですが、虫嫌いの方からは…（苦笑い）。

2代目
竹鼻 康（たけはな やすし）
担当 平成21年5月号から平成27年4月号まで

思い入れの強い一冊

平成23年10月号
紀伊半島大水害のときの災害臨時号。こんなときこそ広報が必要なんだという使命感に駆られ、紙面をすべて差し替え、4日間で作りあげて、被災後すぐに発行しました。

初代
大宅 真吾（おおたく しんご）
担当 平成18年2月号から平成21年4月号まで

思い入れの強い一冊

平成18年2月号
合併前後の5年間、広報きほうを担当しました。第1号は、合併を経てどうすれば鵜殿の方にも親しんでもらえるのか、と特に悩みながら作ったのを覚えていますね。

広報きほう愛読者にインタビュー

広報きほうのどんなところが好きですか？

interview

向井 満男（むかい みつお）さん

好きなコーナー
まちのわだい、今昔物語

紀宝町の記録が詰め込まれている

毎月届くのを楽しみに待っています。「まちのわだい」では、各地区の様子が一目でわかります。また、子どものころの記憶をたどりながら「今昔物語」を読むのが楽しいですね。

1号から残していますが、開けば当時の紀宝町の記録がすべて詰め込まれており、町民の方と行政が上手くかみあっている証だと思います。町民としても、「広報きほう」は誇りです。これからも楽しみにしていますよ！

interview

下地 花江（しもじ はなえ）さん

好きなコーナー
表紙、今月のお料理

思わず笑顔になる表紙が魅力

16年前になにもわからないまま、大阪から引っ越してきました。当時から少しでも地域のことを知りたいと思い、目を通していましたね。「今月のお料理」の料理は、手軽に作ることができ、主婦の味方です。

そして、一番好きなのは「表紙」です。令和4年3月号のマラソンランナーには思わず、こちらも笑顔になり、元気をもらえ幸せにつつまれました。これからも素敵な表紙期待しています♪